

雪崩危険箇所、雪害パトロールの強化を 日本共産党市議団が市の対策本部に要望

日本共産党市議団は8日、10日と市内での雪害調査を行いました。ここでは、主に8日の調査について報告します。

この日は平良木、樋口両議員とともに上越市西部の中ノ俣地区まで出かけてきました。冬場に中ノ俣まで出かけたのは初めてです。吉川区の山間部以上に雪が深く、玄関へ入るには雪の階段を下りていかなければならない家が何軒もありました。しかも高齢者が家を守っていません。改めて、たいへんだなと感じました。

中ノ俣へ出かけた理由のひとつは道路状況の視察です。特に、県道沿いに雪崩危険箇所があるのか、ないのか確認したかったのです。県のホームページでは集落を巻き込む可能性がある雪崩危険箇所は表示してあるものの、道路沿いの危険箇所は表示してありません。実際に車を走らせてみて、こうした危険箇所が何か所もあることがわかりました。この日は気温が上昇し、斜面のあち



こちに巻きだれやスノーボールができていて、とても危険な状態でした。早く機械で削り落とすなどの対応をすべきだと判断してきました。

出かけたもう一つの理由は高齢者世帯などの屋根雪、民家周

囲の除雪状況がどうなっているかを見ることでした。穏やかな天気となっていたので、何軒も家でスコップやスノーダンプで除雪していました。このうちの1軒を訪問したところ、ひとりの女性がもくもくとスノーダンプで雪どかしをしていました。話を聞いたら、若い時には、農業の合間に柵新設事業に出ている、私が育った吉川区源地区で土方仕事をしたことがあるとか。急に親しみを感ずきました。

こうした調査をもとに10日、党市議団を代表して、私が市の災害対策本部の川上防災局長に、道路パトロールの強化、雪庇(せっぴ)落としの状況把握などを口頭で申し入れました。また、県に対しては、日本共産党の竹島県議を通じて、県のホームページでの雪崩危険箇所の



障がい者福祉の基礎を学ぶ

11日の午前、吉川多目的集会場で「実践者に学ぼう…障がい者福祉の最初の一步」と題した学習講演会がありました。講師は吉川区出身で、現在、特定非営利法人、「りとるらいふ」理事長の片桐公彦さん。主催は「まちづくり吉川」です。来年の4月に吉川高等特別支援学校が開校するので、それに合わせた企画でした。

片桐さんは障がい者福祉の歴史や特別支援学校と最近の傾向、支援のポイントなどについて約1時間20分にわたって語りました。「最近、障がい者アートの世界が注目され、表現活動がたいへん評価されている」「障がい者支援はどうすればいいか。そのひとつは、何かの支援をすることによって障がいがあることがチャラになるようにすることが大事」。現場で苦労している人だけに、話す事例も豊富で、じつに分かりやすかったです。今回の講演で、高等特別支援学校を地元としてどう支援していったらいいかだいぶ見えてきたように思います。

掲載を砂防関連だけでなく、道路関係についても行うよう働きかけました。



「元宮橋」と書いて「もとみやばし」と読みます。市内西部の山間部、中ノ俣集落内にあります。中ノ俣川にかかった橋です。今年1月中旬のどか雪では、一斉に雪おろしが行われ、川の流れが見えなくなるほどになっただけです。橋の周辺部にはカヤ葺きの民家がいくつも残っています。

シリーズ 上越市内の橋

第26回 元宮橋



NO 1436
2010.2.14

発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪法一
Tel 548-3628 (有線) 4867
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
URL http://www.hose1.jp/